

輸出事業計画

※申請者名：農事組合法人三重伊賀里山整備活用組合、品目：米

1. 輸出における現状と課題

- 肥料などの資材を圃場に投入する際、現状は噴霧器を背負って 圃場を歩いてまわって散布している。米の生産コスト削減に向けて、作業の効率化により人件費等を削減する必要がある。
- 米袋のパレットへの積付けラップによる外装など、出荷までの作業が負担であるため、国内配送費用の低減と配送の手間の削減が課題である。
- 現地の声を(株)うるらより伝えていただいておりますが、さらに情報交換をしっかりと行い、現地の声を確実に聞けるように、また現地での米の炊飯事情やお米が実際にどのように食されているかなど、現地（フランス）の健康志向をもった消費者などの声を十分に聴くことができるかが課題。

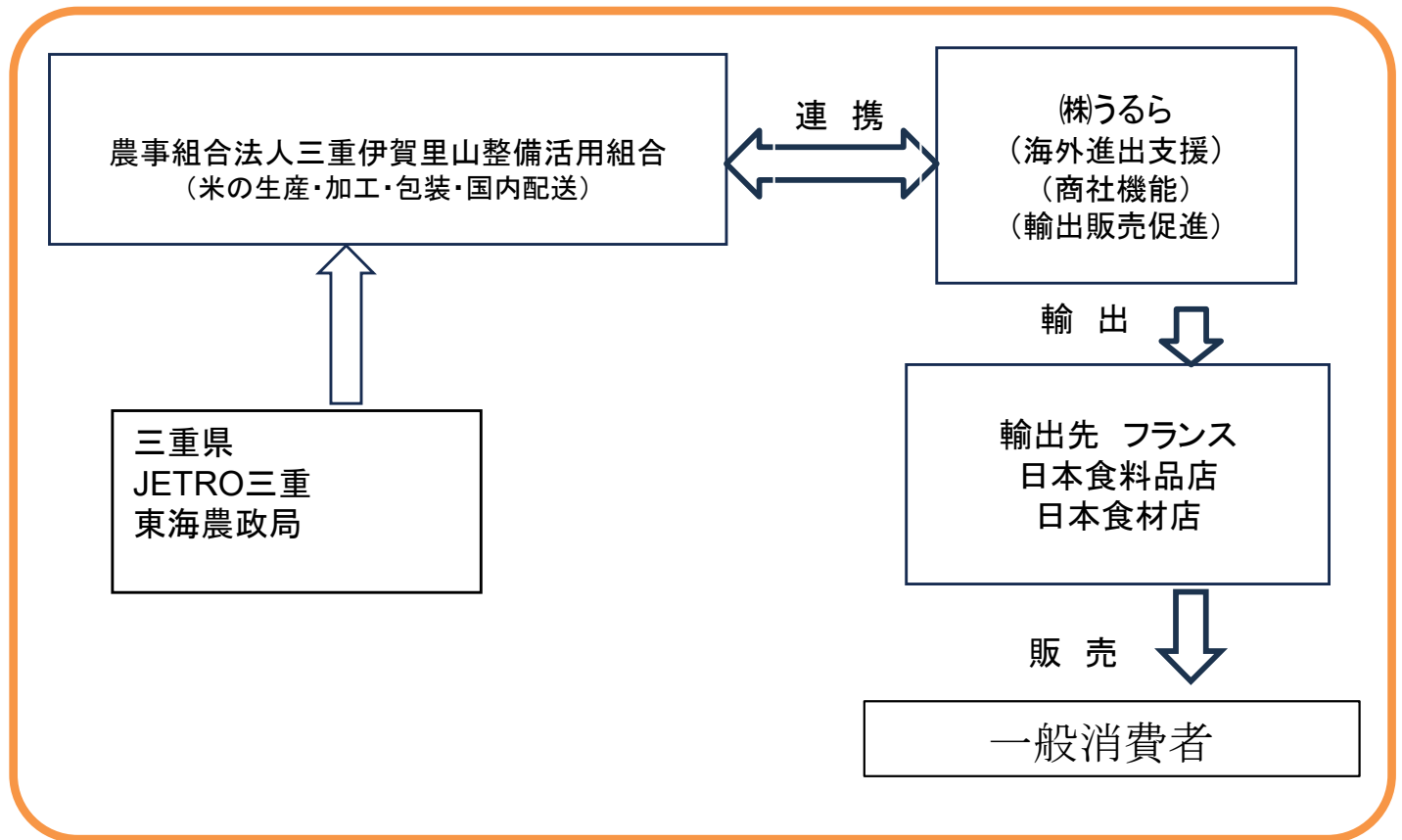
2. 輸出事業計画の取組内容

- 肥料、農薬散布、畔の草刈りの作業を新機材投入によって省力化を図るとともに、散布量の適正化を図る。
- 日本港保管倉庫までの輸送方法を再検討し、ロットを調整し、ボックスチャーターの利用により、配送費の削減と積込作業の軽減を図る。
- 炊飯の最適化の提案などを行い、これらの活動を通して実際の現地の声を聞いてニーズを把握し、PDCAサイクルを確立する。

輸出事業計画

※申請者名：農事組合法人三重伊賀里山整備活用組合、品目：米

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

(輸出品目：米)

		現状 (令和6年)	目標年 (令和12年)
名張地区	輸出額(千円)	228	2,280
	輸出量 (kg)	505	5,000
	輸出先国	フランス	フランス
	取扱量 (kg)	215,080	232,060